

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者氏名：50歳代 男性 要介護1

利用期間 ：令和8年 5月頃 ～ 令和9年 9月現在

経 過 ：脳出血、ピンスワンガー白質脳症、脳アミロイドアンギオパチー

統合失調症、高血圧、頻尿、転換性障害

2010年脳出血発症、2020年頃より歩行困難及び発語減少。2025年アミロイドアンギオパチーと診断される。母親が高齢になり在宅介護困難の為入居となる。入居後は発語なく居室に引きこもり会話を避ける様子やイベントなどの拒否があり、ユマニチュードケアや職員との関わりを増やす事で、安心を感じていただき、職員との信頼関係が築かれ笑顔が見られるようになり、初めて発語が聞かれ施設での生活が安定してきた事例。

内 容

母親と二人暮らしで生活。2010年脳出血発症、2025年アミロイドアンギオパチーと診断される。母親の介護負担が増大し在宅介護が困難となり施設入居となる。

入居時から居室で1日TVをご覧になり過ごされている、職員と会話を避ける様子やレクリエーション、イベントの参加も拒否的な姿勢でうなづくことすら見られない状態だった。発語が無く、表情変化も乏しく声掛けへの反応が少ないため対応を考慮中、転倒事故が起こってしまった。

生活歴や身体状況を踏まえ、安心して過ごせる環境作りを重視した支援を行っていくことを前提に、介護、看護、訪問リハビリ、ケアマネによる多職種連携で情報共有を行い、『見る、触れる、話す』の3つの視点を意識したユマニチュードケアを実施。

毎朝の挨拶から始め、会話の機会を増やす事でコミュニケーションの頻度が高まり、柔らかい表情を見せる場面が増えてきた。

ケアプランで入浴後にデイルームでお茶の飲水を取り入れ、職員の声掛けに自然体な様子も見受けられ、職員への発語も初めて聞かれた。ご自宅では母親との会話はほとんどなかった。ご家族からは「こんなに変わるのですね」とお言葉を頂けた。

リハビリでは在宅時からの訪問看護の職員が担当され、平行棒訓練を取り組み活気が出てきている。在宅では入浴拒否が多く見られていたが、入居してから入浴も毎回入られていることに担当職員も驚かされていた。

イベントでは納涼祭に参加、ご自身でたこ焼きやアイスを選ばれ美味しそうに召し上がっていた。また今期の施設目標でもあるドリーム企画では、何とかご本人の希望を聞きとりビックマックが食べたいと意思表示され、ビックマックが届くとあっという間に笑顔で召し上がった。

今後も親身な対応を基本として、自分らしく生活を送ることができ、安心して居心地が良いと感じていただけるような笑顔ある日々を提供して参ります。